※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）数学演習ⅡＢ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	ベーシックスタイル　数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂ・Ｃ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

演習問題の解法を丸覚えするのではなく、体系的に理解するとによって応用力を身に着けるようにしましょう。また、演習問題では複雑な計算も増えるので、授業中は黒板を写すだけでなく必ず自分でも計算するようにし計算力を高めるようにしていきましょう。

2　学習の到達目標

入試問題を解くための基礎的な知識や技能を習得し、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を身につけることを目標とする。

⑴　数学Ⅱ、数学Ｂの分野についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

⑵　数学的な事象を論理的に考察し、それを的確に表現する力を養う。また、その特徴を数学的に考察する力や問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

⑶　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学Ⅱ、数学Ｂの分野についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学的な事象を論理的に考察し、それを的確に表現する力をつける。また、その特徴を数学的に考察する力や問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	入試問題演習	1. 式と証明 2. 複素数と方程式 3. 図形と方程式	二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 複素数，複素数の相等の定義を理解している。 因数分解や因数定理を利用して，高次方程式を解くことができる。 高次方程式の虚数解から，方程式の係数を決定することができる。 2 直線の平行・垂直条件を理解していて，それを利用できる。	定期考査 確認テスト 提出用ﾉｰﾄ	定期考査 確認テスト レポート	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ の観察 課題ﾚﾎﾟｰﾄ
2学期	入試問題演習	4. 三角関数 5. 指数関数と対数関数 6. 微分法と積分法 7. 数列	三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 導関数を利用して，関数の増減を調べることができる。 定積分の定義や性質を理解し，それを利用する定積分の計算方法を理解している。 漸化式の意味を理解し，数列の具体的な項を求めることができる。	定期考査 確認テスト 提出用ﾉｰﾄ	定期考査 確認テスト レポート	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ の観察 課題ﾚﾎﾟｰﾄ
3学期	入試問題演習	8. 統計的な推測 9. ベクトル	確率変数の分散，標準偏差を，定義から求めることができる。また，分散と期待値の公式を用いて求めることができる。 平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは，空間においても同様に成り立つことを理解している。	定期考査 確認テスト 提出用ﾉｰﾄ	定期考査 確認テスト レポート	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ の観察 課題ﾚﾎﾟｰﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度